

2021 フクシマ アピール

東電福島第一原発の過酷事故から10年が過ぎました。しかし、かつて経験したことのない大量で広範囲の放射能汚染をもたらした原発事故によって、奪われた生活と生業の再建は簡単にはできません。今も、ふるさとに帰ることのできない人々が多くいます。県内の多くの生活圏では空間線量が下がってはきましたが、事故当時、そしてその後も被ばくを強いられてきた事実を消すことはできません。放射線被ばくによる将来にわたる健康への懸念は、払拭はできないままです。今でもたくさんの県民が、原発事故さえなければという思いを抱きながら暮らしています。このような原発事故を起こした国の責任を厳しく追及しなければなりません。そして、原水禁が長年にわたって、広島・長崎の被爆者とともに取り組んできた運動にも学び、全国の仲間と力を合わせ、原発事故被害者の健康と生活を守るために、「健康手帳」の交付を求める運動を進めることも必要です。

東電第一原発の事故処理と廃炉作業は、10年たった今も、多くの困難を抱えています。廃炉や除染作業に、今も多くの労働者が日々、被ばくしながら従事しています。下請けの多重構造の中で不当な扱いを受けたり、過酷な労働条件を強いられている労働者も多くいます。このような労働者とも連帯し、被ばく防護や労働環境等の改善、健康管理を求めていきましょう。

原水禁福島大会では、福島の実況を全国の仲間と共有し、脱原発を訴えてきました。とりわけ、東電福島第二原発の廃炉に向けた運動は、県内はもちろんのこと、原水禁に結集する全国の運動の連帯で広まりました。そして、2019年7月に、東電に第二原発全基廃炉を、ついに表明させることができました。これは、事故後、私たちが取り組んできた粘り強い運動の大きな成果です。この成果を、さらに、全国の原発の再稼働反対、廃炉を求める運動の前進につないでいきましょう。

国は今年4月に、第一原発にたまり続ける「多核種除去設備（ALPS）処理水」の海洋放出方針を決定しました。これは、「ALPS 処理水は関係者の理解なしには如何なる処分も行わない」という、漁業者をはじめ、県民との「約束」を反故にする許し難い決定です。事故の責任を取らないばかりか、さらなる汚染拡大と被ばくを私たちに強いるものです。国は、不確実な「安全性」だけを強調し、国民・県民の懸念や反対に対して十分な回答もせず、風評被害が起これば東電に補償・賠償させるといった無責任な説明をしています。そして、既に被害者の生活再建への支援切り捨てを進めています。いまだに不祥事とその隠ぺいを繰り返している東電に、海洋放出を任せることはできません。私たちは、トリチウム等を含むALPS 処理水の海洋放出の方針の撤回を求めます。そして、陸上保管を継続しつつ、トリチウムの除去技術の開発を進めるよう求めます。2年後を目途に準備が進められている、海洋放出を強行をさせてはなりません。「原発のない福島を！県民大集会実行委員会」呼びかけの「海洋放出の再検討を求める」署名に、県内、全国で取り組み、国と東電による海洋放出方針を断念させましょう。

フクシマの悲劇を二度と繰り返してはなりません。私たちは全国、全世界の反核・脱原発運動と連帯します。私たちは国と東電の責任を厳しく問い、被害者支援の切り捨てを許さず、原発事故被害者の人権と補償の確立を求める運動を強めます。ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・チェルノブイリ・JCO 事故被害者をはじめ、世界の核被害者と連帯します。「核と人類は共存できない」ことを原点に、原発も核も戦争もない平和な社会の実現に向けともに前進しましょう。

2021年7月31日

被爆 76 周年原水爆禁止世界大会・福島大会